



「E-NEWS むらやま」で検索または 右記QRコード から、バックナンバーも見ることができます。

いじめない力、いじめられない力

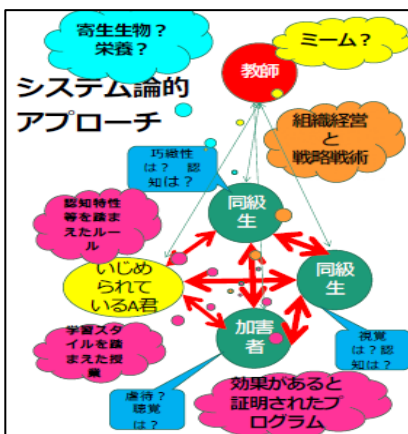
第2回村山地区協議会 10月13日(金) 講師：教育ジャーナリスト (株)薫化舎取締役副会長 品川 裕香 氏

近年山形県のいじめ認知件数は、依然として高い数値で推移しています。また、全国的に重大事案や自殺者数の増加が続いており、憂慮すべき状況にあります。平成25年度に「いじめ防止対策推進法」が施行され、今年で10年になりますが、これまでの取組を礎にしつつも、教職員一人一人のさらなるいじめ防止や対応のための生徒指導力の向上を図るとともに、児童生徒がいじめをしない態度や能力を身に付けるような働きかけを行うことが求められています。改めて「いじめ」についての認識を深めるとともに、各校におけるいじめの未然防止に関する取組を再考する機会を設定してみましょう。

1 いじめをシステム論的アプローチで捉える

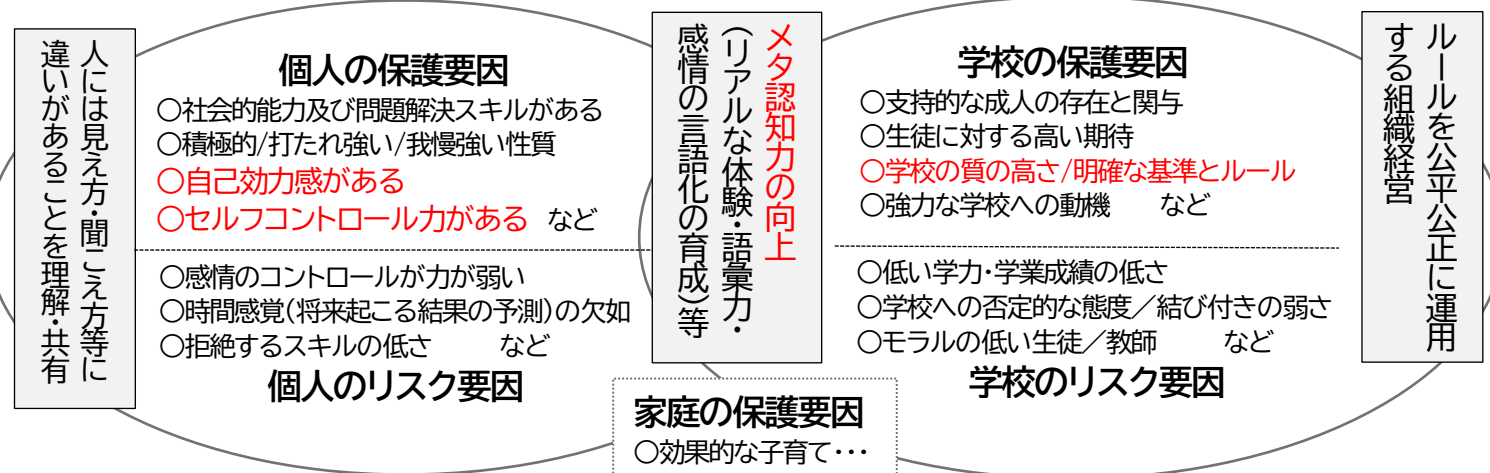
◇いじめに対して、効果的に指導するためには「システム論的アプローチ」の視点が必要です。「システム論的アプローチ」(右図)とは、課題を見えている部分からだけで表層的、一面的、近視眼的に捉えるのではなく、全体像をさまざまな要因のつながりとして理解し、本質的な原因を見定めて、最も効果的な解決方法を求めることです。

これまでの「被害者—加害者」の捉えではなく、「様々な要因」を加味することが大切です。



2 社会不適応を予防する

◇「いじめない力」「いじめられない力」とは、社会不適応を起こさせないための力です。社会不適応を予防するためには、困難な状況やストレスからの立ち直りを促進する「保護要因」を強化し、「リスク要因」を軽減する必要があります。



☆個人の保護要因となる自己効力感やセルフコントロール力を高めるためには、学校の中で役割をもたせ達成させることや規則正しい生活を送る意味を説明し、実践させること、基礎体力を付けさせること、会話や読み聞かせなどで内言語・表出言語を少しでも身に付けさせることなどが大切です。

3 参加者より

- ・子供たちを多面的に見ることや問題を一つに決めつけず、色々な方向から子供達を理解していきたい。学校だけでなく、家庭とも同じ方向を向いて協力していくことの大切さを改めて感じた。
・いじめを未然防止するために、規則正しい生活を送りセルフコントロールができるようにすること、認知機能にズレがないかを見ること、リスク要因を減らして保護要因を増やすことなど勉強になった。

地域学校協働活動推進員養成講座(第2期) 10月10日(火)

村山教育事務所社会教育課では、地域学校協働活動のコーディネートを担う地域学校協働活動推進員等の資質向上や、学校と地域の連携・協働の在り方について学ぶことを目的に本講座を開催しています。今年度は、前川浩一氏(文部科学省CSマイスター、長野県大町市立美麻小中学校地域学校協働コーディネーター)を講師に招き、CSと地域学校協働活動の一体的推進の取組みを持続可能なものにするうえでキーパーソンとなる推進員等が担うべき役割について講話をいただきました。学校と地域が目標を共有し、共に地域の子供たちを育てる取組みを進めるうえで、前川氏の広範囲に及ぶ経験と豊富な人脈、地域の自然や文化、環境などの様々な財を組み入れた実践事例とその背景にある思いや願いをお聞きし、研修を深めることができました。



講話「一体的推進の取組みを持続可能にする地域学校協働活動推進員の役割」から

①最も重要なことは地域住民も授業づくりに参画すること

・「どんな子供を育てたいのか?」。この目標を学校、地域双方が熟議を重ねながら、社会に開かれた教育課程を介して実現していくことが最も重要である。「どのような資質・能力が必要か」、「それらを身につけるためにどのような教育活動が必要か」を教育課程において明確にし、協働による取組みを通じて実践することである。

②CSの取組みを自分事として捉える主体性が大きなキーワード

・美麻小中学校では、毎年「ガイドライン」を作成し、美麻小中学校ならではのCSのイメージや、学校運営における地域の役割などを明確にして日常的に実践している。地域と目標やイメージを共有しているため学校評価の視点も明確である。こうして培われた学校、地域の信頼関係のもと、学校評価の内容が日常的な協働の取組みに反映されている。

③CSは働き方改革のためにあるのではない

・時短だけが目標の取組みではないはずである。子供を核として様々な教育活動を創る楽しさを学校、地域が共有し、働き甲斐を生み出す改革ではないだろうか。

④CSは地域オリジナルしかない

・CS充実のためには、スクールパートナーズ(地域ボランティア)を増やし、育てることも重要である。子供たちを育てようというのであれば、大人も共に学ぶことが不可欠である。できるところから一步一步進めていくことがコツである。

【参加者の声】

- ・思いを共有できる場は大切だと感じました。できることを一つずつ進めていく勇気をもらいました。
・支援やボランティアという言葉や視点ではなく、共に楽しみながら学校も地域も成長していることに感銘を受けました。
・前川先生と子供たちとの「距離感」に最も興味を感じました。「もっとこんな学びをしたんだ」と直接推進員に伝える児童生徒の姿がうかがえ、子供たちと近い距離感を保つことができる推進員の立ち位置の重要性について共有したいと考えています。



お知らせ

村山教育事務所指導課・社会教育課では、学校と地域の連携・協働やCSと地域学校協働活動の一体的推進をテーマに、年2回、「地域とともにある学校づくり研修会」を開催しております。今年度2回目は「学校・地域の連携・協働による人づくり・地域づくり」をテーマに12月1日(金)に開催します。

また、出前講座も随時実施しております。学校と地域の連携・協働に関わる様々なテーマで実施しております。詳細は右記二次元コードをご参照ください。

興味を持たれた方は、村山教育事務所社会教育課(☎0237-86-8274 担当：鈴木)までお問い合わせください。



関連情報
【社会教育課ホームページ】

令和5年度村山教育事務所研修

ネットワーク(NW)型研修会

研修のねらいは、学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・協働的で深い学びの実現に向けて、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」という観点から学習活動等の方向性を改めて捉え直すことです。

9月1日の共通開講式兼第1回研修会では、山形市立鈴川小学校の大谷敦司先生の『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』は、なぜ求められているのか』について御講演をお聞きし、「子供が主役になる授業」(村山教育事務所学校教育指導の重点より)を進めていくうえでのヒントをいただきました。本研修では、子供の姿や授業づくりについて繰り返し語り合うことで、個々の気付きと学びがネットワークのようにつながり、研修者にとって学びが深まることを目指していきます。これまでに行われた各部会の研修の様子を紹介します。

～ 共通研修テーマ ～

『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』という観点からの授業づくりについて』

A教科教育研究コース(国語・算数部会)

国語 単元名「馬のおもちゃの作り方」

「おもちゃの作り方をせつめいしよう」

第2回の研修会では、11月に予定されている授業研究会に向けて、授業構想について語り合った。「書く」活動に焦点を当て、試行錯誤しながら「タイミングを子供に任せる」「やり方を選べるようにする」など自己選択・自己決定ができる子供の姿を目指して授業づくりを行った。今後、互いの授業を参観しながら、子供の主体性をいかに引き出すかについて研修を深めていく。



〈第1回研修会より〉



〈第2回研修会より〉

A教科教育研究コース(社会・総合部会)

社会 単元名「自動車をつくる工業」

第2回の研修会では、授業研究会を行った。単元のゴールを子供と共有することで、子供自身が見通しをもって学びに向かうことができた。本時では、必要な情報を選択したり情報と情報を結び付ける際にタブレットを効果的に活用し、子供が自分の都合やタイミングで情報にアクセスしたり、互いに情報を提示・共有したりして学びを進めていた。今回の実践を通して、子供の学習環境を整える手段の一つとして、ICTの有用性を改めて確認することができた。

B 特別支援教育研究コース

研修を進める際には、個々の課題を共有し、目指す子供の姿として、「できて楽しい」「わかってうれしい」と思える子供を設定した。授業づくり研修や公開研究会での授業参観を通して、部会として育成を目指す「関わり合い、学び合う力」に向けて、その土台となる、相手に関心をもつ、関わって学んでよかったと実感するなどの経験を丁寧に積み重ねることが大切だと気付いた。それらの経験をもとに、子供が自ら求めて相手と関わるができる場を設定した授業を展開している。



〈第1回研修会より〉